

別紙 利用者処遇

○子どもたちは、意識の差こそあれ、「自分は〇〇で日々困っている、〇〇が苦手、〇〇しなくてはならない、でも自分のこともわかってほしい」等々、それは、毎日の宿題やテストのための勉強、進路を目指した備え、学校や家庭における日々の悩み、自分だけの好きで止められない趣味や嗜好であったりと、日々具体的な必要性や目的意識を持って事業所に来所されると思います。

保護者にとっても、一番の不安、関心事は本人の将来であり、そのための本人の学力や生活力、周囲との人間関係、また、学校だけでは伸ばしきれないより幅広い能力や、どんな時でも周囲と調和、共生できる人間性の育みも、焦眉の課題として意識されておられると思います。

私たちはまず、こうした本人、保護者の願い、思いをそのまま受け止め、それに対して共に向き合う事から始めます。したがって、利用者対応は個別での対応を基本とし、まずは支援者スタッフとの良好な人間関係を形成して頂く中で、「安心安全で、ためになる楽しい場」を利用者お一人一人に提供することを目指します。

○それとともに、同じ歳頃の仲間、同じ事業所に通う仲間との触れあいや交流の場、仲間と共にホッとするような、個別の枠を発展的に超えた場も提供して参ります。さらに、こうした場に、利用者自身が親しい友だちも気軽に連れて来れるような場にして頂けることも目指し、これらを持って、本人にとっての「素敵な居場所」作りを提供させて頂きます。

○当事業所スタッフは、全員市内公立小中学校現場経験者、ほぼ全員教員免許保持者で国、社、数、理、英 5 教科も網羅しています。また中心スタッフは、特別支援学級担任経験も豊富で、免許教科にとどまらないマルチな活動をされてきたベテランです。当事業所では、スタッフ自身のこうした経験、知識をフルに生かし、個々の学習課題、到達段階に応じた、より詳細、緻密で見通しを持った学習支援を継続的に行えることが一つのつよみです。私たちはこの学習支援を、子どもたちと向き合うための、大きく有効な媒体と捉え、ここから更に幅広く、趣味や芸能、創作活動等に発展的に取り組んで参ります。また、こうした取り組みプロセスにより、個々の課題解決に対応しながら、集団的な取り組みも同時に並行するカリキュラムにも柔軟に対応できます。

○土曜もしくは日曜は、月 1 回程度のペースで「イベント」開催を致します。

イベント内容は、自立支援(たちまちの生活や今後必要な諸課題、例えば買い物、公共交通機関の利用、そのための下調べ等)、学問、芸術に秀でた方からの講習や創作活動、自然と親しむ中での余暇の体験、地域におけるボランティア体験など、事業所内の活動にとどまらず事業所外へも活動の場を求めて取り組みます。幸い当事業所は、バラ公園やローズコム、多くの保育、医療機関、商店街、福山駅等といった療育、教育に生かせるたくさんの施設に近接し、この立地条件の強みも生かした取り組みをすることができます。また、このイベントを、「友だちを連れてくる」一つの具体的現実的な場として頂ければ、ここから子どもたちに、本事業所を自分の「誇れる居場所」として位置づけて頂けることに繋がると思います。イベント時のサービス提供時間は 6 時間とし、イベント開催に対するスタッフの振替休日等は、シフトを組むことで対応します。

○教育現場における PC 導入にも対応し、学習支援やイベントでも積極的に IT 機器を通した支援を行います。また、理科の実験等体験型の学習も取り入れます。これらによって子どもの学習意欲やより広い分野への関心、意欲がさらに高められると思います。

○先に挙げた「イベント」や日頃の取り組みも含めて、私たちは、保護者の方々にも、ご自身の学びや交流を深め、広げていく場のご提供をはかりたいと考えています。また、当事業所において講師を招くなどのスタッフ研修の際にも、可能な限り保護者もお招きし、ともに学び語る中で、互いの知識、意識を高める取り組みをして参ります。

○以上の活動に、不登校の状況にある子ども達や、地域において発達上の課題を抱えながら生活困窮等の理由により十分な支援を受けられていない子ども、保護者、その協力者も、見学、体験、交流といった形で、関係機関、関係者の了承の下お招きし、より広く、子どもたちや保護者への支援の輪を広げることを目指します。

以上が利用者処遇です。